ほんの森

図書館☎84-3311

図書館休館日
7月15日(火)　毎週月曜日

日曜映画会

『まんが日本昔ばなし』

と　き　6月22日(日)
午前10時・午後2時
上映時間　50分
ところ　ハイビジョンホール
定　員　各回　先着100名
※整理券は不要です

金曜映画会

『審　理』

と　き　6月27日(金)
午後2時から
上映時間　1時間
ところ　ハイビジョンホール
定　員　先着100名
※整理券は不要です

文芸

❖俳句

一片の落花漂ふ手水鉢　浅野　茂子
救急車去りし闇夜の遠蛙　池田　逸子
高齢者後期の身分花は葉に　伊藤　敬子
眩しきや乙女のブラウス薄暑風　今関満喜子
夜桜に誘はれるまま花見酒　魚地　照子
行く雲の淡きに桜咲きのぼる　江森　悦子
鯉のぼり声も賑やか登校路　大木　素風
藤棚や立たして見せたい京舞子　大谷　武彦
田を植ゑて利根の水入る星の下　川島　孝夫
どこからも富士は毅然と鯉のぼり　川島　通訓
田づくりの代田(しろた)にはしゃぐ蛙かな　桑名　大行
降りそそぐ花のトンネル子等駈ける　向後　寛
紋白やひらひらひらと宙に舞ふ　小松　藤男
ペタル踏む塾帰りの児遠蛙　佐瀬　輝夫
愚図る児に母の指さす鯉のぼり　椎名万里子
散る桜浴びて今年も生きるかな　宍倉　道子
また雨かひとり茶を呑む薄暑かな　髙橋　七郎
風薫る筧の水を手のひらに　玉虫　栗扇
鯉のぼり連ねて川を一またぎ　土屋美枝子
何処をどう飛んで生れし芥子の花　戸村　靜華
時変る桜しりぞけ道広ぐ　長谷川正子
リハビリの車若葉の下を行く　福田　幸子
豊かなる春日の匂ひ仁王門　布施　和代
新緑やテニスの玉のひびく音　山口　とし
新茶まだか新茶まだかと父逝きし　山口　一秋
白梅や砦の如き大藁家　渡部　和秋

❖短歌

華やぎし五月の空の鯉のぼり
少子化進む空の虚し　伊藤　定男
爺婆も元気でいてね鯉のぼり
五月節句の孫の一言　越川　義訓
薫風に心はずめる野の小路
蛙の合唱一斉にきこゆ　高梨　キヨ
庭隅(くま)に結びし文を思はせて
辛夷の花が白く咲きゐる　吉岡　信子
いづこより種飛び来しか畦道に
オレンジ色のポピー群れ咲く　芹川　初子
見せうとて咲くに有らねば
花言葉の記憶たしかめ桜ばなみゆ　永籐　滋
花水木ひびき優しきこの花が
父母の御墓の傍(かたへ)に咲けり　田崎　尚美
菜の花が両側うづめ黄に咲ける
線路を一輛電車が走る　西山満里子
ベランダに穂先届きし花蘇芳蝶の
形の花を手にせり　鈴木まさ子
竹の子を山椒に和へて作りしを
夫に供へつけふは命日　池田　春江
里芋の種選(よ)りをれば白き芽の
小さきがはやも芽生え初めゐる　押尾　輝子
早乙女も結ひの言葉も死語となり
田植機の音里に響かふ　佐瀬　初音
ひと日ごと青田は色を深めゆく
豊作祈り畦をゆくなり　平山　芳子
夫好む鰺の刺身を作らむと
小骨抜きゆく毛抜き使ひて　八角　三枝
咲き盛る桜さやさやさ揺れゐて
冴え冴え匂ふ桜並木の　斉藤つね子